

令和3年2月25日

奈良保育学院  
学院長 多中 祥元 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 大原 敏敬

## 学校関係者評価委員会報告

令和元年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 谷口 偉（奈良市私立幼稚園協会会長、西大寺幼稚園長、光が丘幼稚園長）
- ② 辻村 泰聡（極楽坊保育園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県専修学校各種学校連合会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 丸澤 公代（奈良保育学院三友会長）
- ⑤ 徳永 明子（元奈良保育学院附属幼稚園長、奈良保育学院第16期卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

- |        |            |                   |
|--------|------------|-------------------|
| 第1回委員会 | 令和2年6月6日   | （会場 白藤学園 やわらぎホール） |
| 第2回委員会 | 令和2年10月31日 | （会場 白藤学園 やわらぎホール） |
| 第3回委員会 | 令和3年2月13日  | （会場 白藤学園 やわらぎホール） |

#### 3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

## 学校関係者評価報告書（最終）

## I 重点目標について

## 1 重点目標1について

重点目標	<p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適切な学生への関わり、全教職員間の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。</li> <li>・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。</li> <li>・日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 100%を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用活動が遅れていないか。</li> <li>・求人数は例年と比べてどのような状況か。</li> <li>・卒業生が本園で頑張ってくれています。</li> <li>・娘は昨日保育園から内定を頂き、安心した。</li> <li>・新型コロナの感染拡大で、昨年度の学生の教育に影響等はなかったか。</li> <li>・三密を避ける努力・取り組みはどうであったか。</li> <li>・実習受け入れ側の園と連携が取れていると感じる。人との繋がりを大切にしている。</li> <li>・卒業生としては、良い進路選択をされていると思います。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では未定者が2名の状態である。求人数は507件を超えている。卒業までに決定出来るよう指導・サポートを重ねていく。</li> <li>・学習面・生活面に関しては、適切な関わりを継続していく。</li> <li>・未取得の卒業生1名は、本年度に科目等履修で受講中である。就職については、意識をしっかりと持つように指導を強化していく。</li> <li>・卒業後1年目に就職先を訪問している。2年目以降について、同窓会等を通じて把握に努める。</li> <li>・昨年度の学生に対して大きな影響はなかった。しかし、卒業式で参列人数の縮小を図った。</li> <li>・3密を避けるため、登校時にアルコール消毒・検温を義務付け、時差登校と30名以下の講義に変更した。</li> </ul>

## 2 重点目標2について

重点目標	<p>2. 第三者評価を受審し、職業実践専門課程認定校として充実した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価を受審することにより、学校運営・教育活動の水準・内容を明確にするとともに、教育の質の保証・向上を図る。2年後に再度受審を予定。</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 26 度より実施している学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を継続し、教育課程の改善を図る。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年審査があるが、進捗状況はどのような感じか。</li> <li>第三者の目を大切に評価をすることは、大切な事である。</li> <li>学院の中身を知ってもらい、評価をしてもらうことが大切。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者評価受審結果に基づく評価機関からの助言や指摘については、教員研修や必要事項の確認により改善している。職業実践専門課程が認定されて 5 年が経過するが、認定校としての意識を常にもち、更に充実した教育・学校運営を実施していく。</li> <li>職業実践専門課程継続の書類は揃え、奈良県に提出済である。</li> <li>2 年後に再度、評価を受ける予定であるが、今年度は ZOOM での聞き取り調査のみ実施した。</li> </ul>

## II 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲先生による建学の精神「敬身・敬学・敬事」を基本とし、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指す。開講科目の 70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学 2 年間で修得する。上記事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、学院 HP に記載しており、学外への公表、本学教職員や法人役員に対しても公表している。</li> <li>教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・福祉施設との連携を密にした実習指導を実践。学外公営ホールにおける表現活動発表、地域とのボランティア活動などを通して、学生個人が目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。</li> <li>令和元年度卒業生は、卒業資格 100%、幼稚園教諭二種免許状取得率 98%、保育士資格取得率 98%、資格・免許取得者における職就職希望者の就職率 100%、ピアヘルパー取得率は 78%であった。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習受入れ側としては、将来の保育者として適切な言動が出来るよう養成校で指導をお願いします。</li> <li>保育学院の学生は素朴で良い学生です。学校もアットホームで温かいと感じています。</li> <li>親子で保育学院を選ばれている人が多いのでしょうか。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアヘルパー取得率 100%を目指す。</li> <li>学生の言葉遣いについては、あらゆる場面で指導継続する。</li> <li>学生の満足度を上げるために、教職員が時間を惜しんで対応しています。</li> <li>卒業生の子どもさんが入学されるケースは、比較的が多いです。</li> </ul>

## 2 学校運営

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の目標に基づき、学校運営方針を明確に定めている。学校運営方針は教職員に明示し、周知されている。また、学園運営に関わる必要な諸規程は整備できている。</li> <li>・学園創設 120 周年を契機に、中期事業計画として「120 周年ビジョン」を策定し、この中で本学の目的、目標を達成するため、関連事業計画を定めている。</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定めており、組織の構成員・職務分掌と責任は明確になっている。今後、厳しい学園運営も予想される為、理事会・評議員会・各種会議では実効性のある徹底した議論が必要である。</li> <li>・領域に対応出来る教員の確保については、設置基準等の定めるところを遵守し、必要人員を配置している。処遇等については、平成 26 年度から「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行っている。人事考課の結果は、翌年度の賞与支給に反映させている。</li> <li>・平成 27 年度に学園内の LAN システムを構築し、教職員一人一人が PC を持ち、事務の効率化につなげている。今年度は、国からの支援制度を活用して行く計画である。</li> <li>・効率的な学生管理を行うため、学校管理システムの導入を検討する。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Wi-Fi 設備等の充実で、どのような変化があるのか。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響はどの程度あるか。</li> <li>・オンラインで学修に対応できるのは学力の高い学生だと思いますが、オンラインだけでは不十分な学生には対面授業との併用で効果を上げて欲しい。</li> <li>・他校では ZOOM で出席をとった後、学生が何をしているのか把握できていないところもあると聞くので、やはりミックスして授業をお願いしたい。</li> <li>・オンライン一本となると保護者としては不安がある。</li> <li>・ポストコロナにどう対応していくかが非常に重要である。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園内の施設予約・管理・他部署との情報共有と確認作業が適時行えるようになり、業務の効率化に繋がっている。また、今年度、簡易の Wi-Fi を設置し、充実を図っている。講義にインターネット環境を使用する場合、スムーズに業務が進んでいる。</li> <li>・対面授業を基本とし、3 密を避ける分散登校や受講人数を半分にして実施している。また Zoom 等を利用して遠隔授業を行っていく計画である。そのために、ハード面の充実を推し進めている。</li> <li>・人を育てる養成校なので、対面授業は重要視して良い意味でのハイブリッドで進めていく。</li> <li>・新型コロナの終息後、完全に元の状態に戻すことは考えていない。共存を上手にしていく方法を模索中である。</li> </ul>

### 3 教育活動

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標・育成人材像は、本学に対応する人材ニーズに正しく方向付けられており、十分な内容で定められている。</li> <li>・カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されており、各科目は監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な位置づけとなっている。</li> <li>・目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、ダブル資格取得を支援する教育内容となっている。また、学年担任制を設定し、きめ細かな指導を実施している。</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は学則に明記しており、その内容に則った成績評価・単位認定の方法及び基準を各教科のシラバスに記載している。実践力向上のため、関係科目における担当者間の情報交換を行い、適切に対応している。</li> <li>・常勤・非常勤ともに、採用時には履歴書及び教育研究業績書の提出を求めている。文部科学省による資格審査に合格し、育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している。更なる専門性向上のため、学会や研究発表、研究紀要の執筆等を奨励している。</li> <li>・授業を客観的に評価・分析することを目的として学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果は各教科担当教員へ報告し、授業改善を促している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた人員で運営していると思うが、事務的な仕事を受け持つ人的配置はないのか。</li> <li>・働き方改革とは逆行する部分もあるが、学生本位の学校として良い姿だと思う。</li> <li>・学生との関係性構築という面では、学院らしさが出ていると感じる。</li> </ul>
<p>学校側の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先で保育者への志望意識を涵養できるよう、学校での実習事前事後指導にも力を注いで行きたい。</li> <li>・授業評価アンケートは、新型コロナの影響で実施が例年より遅れている。実施後の結果をもとに、教員のコメントを有効活用し、各教員の授業力を向上させていきたい。</li> <li>・研究活動については、発表や研究紀要（今年度発刊予定）への投稿により、各教員が取り組んでいる。</li> <li>・職員形態は、実績のある教員を非常勤の形態で継続し、業務をサポートしてもらっている。</li> <li>・教員増は難しいが、昨年までと仕事分担を変更して対応している。</li> </ul>

### 4 学修成果

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に関しては、取得率の向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。令和元年度卒業生は、全員が卒業資格を有したが、幼稚園教諭二種免許状取得率・保育士資格取得率共に 98%であった。また、両資格・免許取得者における関係職への就職率は 100%を継続した。その他関連</li> </ul>
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>する資格として、日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格の取得を目指しており、令和元年度は合格率 78%であった。資格・免許取得率及び就職率については、その推移に関する情報を明確に把握しており、引き続き向上に努めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年担任制をとり、学年担当が個々の学生の相談及び指導にあたっている。各授業の様子や欠課時数については教員間で共有し、連絡を密にとる体制を整えている。</li> <li>・就職担当教員を中心として前年度卒業生の就職先を訪問し、卒業生の子どもの把握や離職率の防止に努めている。また、学校案内パンフレット・進学情報誌・公式 web サイト・HP 等における紹介、就職ガイダンスの講師として招聘することで近況把握をしている。</li> <li>・在学生については、保育・教育実習、地域でのボランティア活動、学外会館での表現活動発表会を通じて、教育・保育・福祉の現場からの評価を把握している。今年度は新型コロナの影響によりボランティア活動が十分ではなく、今後学生のモチベーションを工夫して高めていきたい。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入保育士は、特に神経を使い大事に育てている。就職してもらったら長く勤めてもらうことが、園にとっては大切な事。卒業生と繋がり、園に先生方が顔を出してくれることは非常にありがたい。</li> <li>・実習先に先生が巡回してくださり、娘はとても嬉しそうに話をしてくれた。</li> <li>・大規模校にはない相談できる体制が出来ていると感じる。非常に手厚い。</li> <li>・新型コロナ禍で大変な状況下だと思うが、求人状況についてはどのような様子か。今年の就職状況はどのような感じか。</li> <li>・学修成果の集大成である「表現活動発表会」が開催できて安心した。</li> <li>・学園内の付属幼稚園との連携は出来ているか。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士養成校として現場との差異を少しでも緩和できるよう、実習科目等の実務家教員による指導の強化、様々な内容を含めた講習会の実施等に注力していきたい。</li> <li>・1月末現在 507 件の求人が届いている状態である。今年は新型コロナの影響で園の様子を動画等で見せてもらっている園も出てきている。学生の希望を聞きながら又、状況を見ながら積極的に働きかけをしている最中である。就職内定者もかなり報告されている。</li> <li>・実習先訪問は、かなり昔から実施されているので、今後も継続して対応していく。</li> <li>・表現活動発表会は入場者を制限し、感染対策を万全にして開催した。</li> <li>・付属幼稚園・高等学校と打合せ会議を行い、連携を強化している。</li> </ul>

## 5 学生支援

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の就職・進学指導に関する体制を整備し、就職・成績・生活面等、随時個人面談を実施している。また、成績不振学生の保護者には督励</li> </ul>
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>文書の送付や面談を実施しており、その他指導または配慮を要する学生の保護者にも必要に応じて連絡・面談を実施している。面談結果については、文書に残し保管している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学費に関する支援体制は、奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備している。奨学金制度は、日本学生支援機構を利用している。</li> <li>・学生の健康管理体制は、学園共有の保健室に養護教諭が常駐しており、学院の教員と連携しながら対応している。また週一回 SC が対応している。</li> <li>・クラブ活動は学生の自主性に任せており、自治会役員とクラブ部長を中心として、自治会担当教員と連携しながら活動を実施している。また、クラブに関する規程は学生便覧に明記済である。</li> <li>・卒業生への支援体制に関しては、同窓会組織があり、定期的に総会や会合を開催している。また、就職担当教員を中心とした教員による卒業生の就職先訪問や転職希望者への情報提供・面談などを実施しており、卒業後の支援体制も整えている。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、アプリの導入をどう活用されるのか。</li> <li>・同窓会を活用して人材の掘り起こしを行ってはどうか。</li> <li>・個人的に IT やネットは苦手だが、時代に則した対応をお願いします。</li> <li>・SC について詳しく教えてほしい。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織については、次年度アプリを利用して工夫を加える予定である。スマホにアプリをダウンロードして頂き、ワンプッシュ方式で保育学院の情報を通知し、同窓会情報も発信していく予定である。現在、基礎ページを作成中である。</li> <li>・SC については、学園内で 1 名です。日本心理士協会より推薦されたカウンセラーが週 1 回対応している。SSW についても今後検討していきたい。</li> </ul>

## 6 教育環境

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備はいずれの建物も耐震基準を満たしており、不具合がみられる場合は適切にメンテナンスを実施している。セキュリティ管理は、監視カメラの設置、警備保障との契約、通用口の施錠、侵入防止扉等を設置している。今後も安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止に努めていく。</li> <li>・大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。防災備蓄については、平成 28 年度より補充・管理しており、災害への備えを万全にすべく現在も体制を整えている。</li> <li>・学外実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、実習事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。今年度は殆どすべての実習が後ろ倒しとなり、タイトなスケジュールで進んでいる。</li> <li>・インターンシップや海外研修は、希望者がいる場合のみ情報を提供し</li> </ul>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	ている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、実習等が後ろ倒しとなっているが、期間等は大丈夫か。</li> <li>・授業回数も気になるが、規定時間数が確保されているのか。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園への教育実習は非常にタイトな日程となるが、時間数等も確保できている。</li> <li>・授業回数については、長期休暇を短くする等の工夫をして規定時間数を確保している。</li> <li>・幼稚園・保育所・施設等を含めた関係先へのボランティアを含め、活動を促進していきたい。特に今年度は予定のボランティアが実施出来ていないため、日程調整を進めている。</li> <li>・保育所実習前、幼稚園実習前には近隣の保育園並びに本学院付属幼稚園にて観察・参加実習を行っている。今後も実習を重視し、実践力を養成していきたい。</li> </ul>

## 7 学生募集と受入れ

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は日程調整を重ね、次年度の入学者獲得に向けて広報活動を継続している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問い合わせや相談への対応は、広報担当教員が適切に行っている。</li> <li>・入学者選考は公平性を保つために全教職員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて協議により判定している。志願者数は年度による増減が見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響・高等教育無償化を考慮し、高校訪問や進路相談会等への参加については今後も継続していく。</li> <li>・学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて安価であり、学生・保護者の大きな負担はないと考える。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校はいったん社会人になってから入学してくる学生もいると思いますが、若い学生の刺激になったりはしますか。</li> <li>・高等教育無償化の影響はどの程度か。</li> <li>・大規模校に無い個別対応を更に重要視して欲しい。HP等のWeb活用をもっと進めて欲しい。</li> <li>・丁寧な対応のおかげで募集定員充足に繋がっていると感じる。</li> <li>・高卒認定試験合格で入学した学生の対人関係はどのような感じか。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人経験者は増加傾向にある。また高卒認定試験合格者も微増である。</li> <li>・社会人経験者は学生間のリーダーシップをとっている。</li> <li>・進学情報媒体の内容等について、応募実績を検討の上、本学院の特徴である就職実績・実習指導・学生との関わり・学費面等を猛アピールして学生募集に繋げていきたい。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響と高等教育無償化の影響が出てきている。遠方からの受験者が減少傾向にある。知名度を上げるため、新たな広</li> </ul>



	<p>報媒体を用い、対応をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集方法の多様化に対応していく。</li> <li>・ 様々な要因があり高卒認定試験を受けた学生も数名在籍しているが、非常に積極的に行事参加もあり、友人関係も全く問題がない。</li> </ul>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 8 財 務

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務基盤は必ずしも安定しているといえない。学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生・生徒・園児数の定数を確保していく必要がある。</li> <li>・ 年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。</li> <li>・ 財務状況の公開については、平成 27 年度より学園 HP にて公開しており、その他必要に応じて開示している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生確保も影響すると思うが、その点どのように考えているか。</li> <li>・ 今後募集活動は厳しくなるが、保育学院は今後定員数を確保できるのか。</li> <li>・ HP 等に学校情報を載せることは、外部の視点からとても大切なことである。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務管理は法人で厳正に行っている。本学院の定員数は充足されているが、学園全体としての財務状況は楽観視できない。教育を取り巻く状況は日々変化していく中、法人の幼稚園・高等学校・保育学院組織が一丸となって対応していく。</li> <li>・ 当然、入学者数により学園全体に影響が出るため、定員確保には今まで以上の努力をしていく。</li> <li>・ HP では学校行事・授業の様子等を掲載しているが、更に様々な情報を発信していく。</li> </ul>

## 9 法令等の遵守

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令や設置基準は遵守している。</li> <li>・ 学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知徹底は出来ている。学生に対しては、SNS 等への書き込み・メディア機器を通じた情報流出が社会問題となっていること、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には、懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。</li> <li>・ 平成 26 年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成している。</li> <li>・ 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。平成 26 年度より学校関係者評価委員会にて評価を実施し、平成 27 年度より評価結果概要及び報告書を HP 上で公開している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍でもある為、法令順守に留まらず、リスク管理についても取り組んでいる園・学校もある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生自身の自覚も必要だが、保護者に対し、個人情報の管理・SNSでの何気ない配信等を含め理解・協力できるよう現場では気を付けている。</li> <li>・新型コロナの影響で実習や資格取得が本当に出来るのか心配である。</li> <li>・卒業単位まで授業時数を確保できるのか。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSについては、入学時に学生に対して同意確認を採っている。実習前には、オリエンテーション及び事前指導において、指導を徹底させている。実習2週間前から体調管理表を作成し、実習先に提出することも実施している。</li> <li>・授業時数はクリアできるように教務が調整を完了している。また実習日数を減らすことなく計画が出来ている。資格取得においても不安なく実行できると考えている。</li> <li>・SNSについては実習先での不用意な発信、園児のプライバシー保護も考え、行動するよう指導している。</li> </ul>

## 10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会および地域貢献活動の一環として、平成26年度より、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした保育士資格取得制度（特例教科目講座）を開講している。また、例年、指導機関の奈良教育大学と連携して、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした免許状更新講習会を実施している。ただし、今年度は感染防止を優先し、中止の措置をとった。</li> <li>・子育て支援センター・地域の催し参加・出張公演等・ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励しているが、関係機関と相談の上、中止または延期の措置をとらざるを得なかった。学生の活動はHPや学園新聞等を通じて広く公開している。学校は、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割も担っていることを認識し、活動に取り組んでいく。</li> <li>・学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施している。学園周りの花壇の整備や空調の温度管理も実施している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動等は全て延期となっているのか。</li> <li>・新型コロナ終息後、日程調整が出来るのか。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園周りの花壇に花植えを行っているが、学生が進んで手伝いをしてくれる。</li> <li>・資格取得講座及び教員免許状更新講習会は、次年度以降、感染防止を考慮しながら引き続き実施していく予定である。</li> <li>・地域の催しに積極的な参加を促し、地域貢献を果たしていく。</li> <li>・密を避けながら是非したいと考えている。</li> </ul>